

平成 28 年度事業報告

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(5)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(9)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(17)
(2) 監事	(17)
(3) 評議員	(18)
(4) 退任した役員等	(23)
(5) 役員等の報酬等	(23)

② 会員に関する事項 (24)

③ 職員に関する事項 (24)

④ 役員会等に関する事項 (24)

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項 (29)

⑥ 重要な契約に関する事項 (29)

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(31)
2. その他の記載事項	(32)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 61 回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪市立大学医学部人工腎部 病院教授 武本佳昭会長が主宰し、平成 28 年 6 月 10 日（金）、11 日（土）、12 日（日）の 3 日間、大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル・リーガロイヤル NCB・堂島リバーフォーラム・ABC ホールを会場として開催され、今回のテーマは「持続可能な透析療法をめざして—Toward a sustainable dialysis therapy—」を掲げて開催し、参加者は 18,780 名であった。

<会長講演>

「持続可能な透析療法を目指して—大会長の思いとその原点—」

<特別講演>

「災害被害の最小化を目指して～南海地震に備える～」

「『胃がん予防のためのピロリ菌除菌の保険適用の実現』 および『骨太の方針 2015 策定後の「下肢末梢動脈疾患指導管理料」の実現』への道のりについて～透析患者のフットケアについて」

<招請講演>

「The Birth and Development of Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis」

「Peritoneal dialysis : past, present and future」

「Clinical evidence of hemodiafiltration」

「AVF Creation : 'How to make them work'」

「The Future of CKD-MBD」

「Living Life to the Full on Home Dialysis – How Patients and Doctors Can Work in Partnership」

「2016 Report : New advances in outcomes ; Reducing death rates, Infections, Readmissions」

「ESRD 治療の今後」

「Home Hemodialysis : Clinical Benefits, Risks, and Target Populations」

<シンポジウム>

「発展的血液浄化法の適応と限界」, 「長期生着へ向けた腎移植後内科的合併症への対応」, 「CKD 看護の質向上と看護師のキャリア支援」, 「死因としての感染症—実態と対策—」, 「CKD-MBD : 基礎と臨床データをつなぐ」, 「透析患者の無症候性脳心血管病の現状と対応」, 「AKI における急性血液浄化 : 日本発臨床エビデンスの構築を目指して」, 「透析医療の質と Quality indicator」, 「JSDT2016 PDOPPS Symposium」, 「腹膜透析普及に向けた展望」, 「透析患者とエビジェネティクス」, 「透析医療と看護倫理」, 「腎性貧血の最新の動向—bench to bed—」, 「透析患者の中毒性副作用・相互作用を防ぐ」, 「発症から終末まで支える CKD トータルケア～RTC から透析医療・保存期の医療スタッフへ～」, 「糖尿病透析患者に特化した診療コンセプトの構築」, 「オンライン HDF の適応疾患を明らかにする」, 「通院困難透析患者に関する諸問題」, 「The アクセス～外科的手術と VAIVT の融合～」, 「在宅医療最前線」, 「透析液を巡る話題 : 現在・過去・未来」

<ワークショップ>

「透析患者に対する運動療法」, 「透析患者の終末期に於ける看護の役割」, 「日本の透析医療の輸出 : 発展途上国に於ける持続可能な透析療法を考える【カンボジアにおける Japanese Assistance Council of establishing Dialysis Specialists system in Cambodia (JAC-DSC) の軌跡】」, 「本邦小児腎代替療法の現状と国

際比較」,「透析療法におけるモニタリング技術の最前線」,「VAIVT:部位・病態別の治療方針」,「腎移植後悪性腫瘍のマネージメント」,「透析患者の栄養管理の実際」,「アフレスシ療法 UP-to-Date」,「MBD管理で目指す具体的な血管石灰化戦略」,「看護師が創る透析地域包括ケア・連携」,「慢性腎不全における抗がん剤治療とその成績」,「透析患者の免疫異常の制御を目指して」,「腎不全における再生医療の最前線」,「サステナブルな患者指導を考える」,「患者の足を護るフットケアと看護」

<学会・委員会企画>

『編集委員会企画:「医学雑誌を知って論文を書こう」』,『学術委員会企画:「透析関連ガイドラインの国際比較」』,『学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会企画:「特別な機能をもつ血液浄化器の特性とその評価法」』,『学術委員会・統計調査委員会 合同企画:「統計調査にみる明日からの高齢者透析治療」』,『危機管理委員会企画1(災害対策):「経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策」』,『学術委員会企画:「Dialysis Therapy, 2015 Year in Review」』,『学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画:「持続可能社会に求められる新しい血液浄化システム」』,『学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会企画:「透析液濃度管理の標準化をめざして」』,『保険委員会企画:「非自己管理型在宅血液透析療法の諸問題」』,『総務委員会 HP・電算機小委員会企画:「新しい共通プロトコルの策定」』,『倫理委員会企画:「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について』,『学術委員会 血液浄化の機能・効率に関する小委員会・ISO対策WG合同委員会企画:「コンセンサスカンファレンス:透析液水質基準の改定」』,『男女共同参画推進小委員会企画:「透析に関わる多職種の男女共同参画の現況と問題点」』,『専門医制度委員会企画:「専門医制度の現状と今後の展開」』,『統計調査委員会企画:「世界一のレジストリにするための方策」』,『腎不全総合対策委員会企画:「わが国の ESKD の現状と今後の課題」』,『学術委員会・統計調査委員会 合同企画:「統計調査からみた糖尿病透析治療の現在と未来」』,『危機管理委員会企画2(医療安全):「透析における医療安全を考える～医療事故調査制度をどのように理解し対応するか」』

<教育講演>

「腹膜透析の合併症対策」,「透析条件・透析量と生命予後」,「透析患者の心臓手術:石灰化との戦い」,「リンコントロールのポイントは?」,「透析患者の貧血治療」,「VAIVTと3ヶ月ルールへの対応～医学・医療経済・医療倫理の視点から～」,「先行的腎移植」,「透析患者の感染症対策」,「糖尿病透析患者に対する基礎および応用カーボカウント処方」,「透析患者のPAD治療」,「透析患者の高血圧管理」,「動脈硬化リスクとしての糖尿病腎症患者の血糖変動幅増大～DPP-4阻害薬の有用性・グリコアルブミンによる食後高血糖の正確な評価～」,「脳腎連関:慢性腎臓病と脳血管障害」,「二次性副甲状腺機能亢進症治療における副甲状腺摘出術の位置づけ」,「透析患者の脂質代謝異常」,「エコーを用いたバスキュラーアクセス管理」,「観察研究のデータ解析:回帰分析と傾向スコア」,「腹膜透析の適応・手術・管理」,「急性血液浄化療法」,「末期腎不全治療選択について」,「透析患者の循環器疾患～冠動脈および末梢動脈病変～」,「PD-D併用療法」,「医療経済とバイオシミラーの現状」,「多発性嚢胞腎～新たな観点から見据えて～」,「On-line HDFの有用性について」,「小児末期腎不全診療の現況と治療戦略」

<よくわかるシリーズ>

「よくわかる AKI 診断・治療」,「よくわかる On-line HDF の実際」,「よくわかる透析患者の CVD」,「よくわかるアフレスシスの実際」,「よくわかるバスキュラーアクセス～原理,作製,管理まで～」,「よくわかる VA 合併症」,「よくわかる PD 関連手術」,「よくわかる透析患者の薬物療法 up to date」,「よくわかる慢性創傷の治療」,「よくわかる透析患者の脳萎縮と認知機能障害」,「よくわかる透析患者の貧血と鉄補充療法」,「よくわかる CKD-MBD 治療<薬物療法>」,「よくわかる VAIVT」,「よくわかる腎移植」,「よくわかる献腎移植～その普及を目指して～」,「よくわかる保存期腎不全に看護師として行うこと」,「よくわかる PD-HD ハイブリット療法」,「よくわかる透析維持期に看護師が関わる意味」,「よくわかるカーボカウントを用いた糖尿病透析に対する食事指導」,「よくわかるはじめての腎移植～患者とスタッフがまず知りたい腎移植～」,「よくわかる穿刺技術の実際」,「よくわかるリン管理と食事指導」,「よくわかる透析

関連液の生物学的汚染の測定の実際」, 「よくわかる透析患者の大腿骨近位部骨折対策」, 「よくわかる最新のC型肝炎治療を透析患者にどのように適応するか?」, 「よくわかる透析患者の運動療法」, 「よくわかる透析導入期の看護の役割」

<国際学術交流委員会プログラム The Committee of International Communication for Academic Research (CICAR)>

「Sustainable Relationship in Dialysis among Asian Developing Countries and Japan – hat do You Need for Renal Replacement Therapy in Your Country? –」, 「Wading Through a Sea of Numbers : Managing Hypertension in Dialysis Patients」, 「What does FGF23 do on hemodialysis and CKD patients」, 「Ironoverload and iron toxicities in dialysis patients at the beginning of the 21st century」

<企業共催シンポジウム>

「DOPPS Symposium in Japan」, 「CKD-MBD 治療の進歩」, 「CKD-MBD と鉄代謝の世界的潮流」

<市民公開講座>

平成 28 年 7 月 24 日 (日) 大阪国際会議場で「国民病, シーケーディー (CKD, 慢性腎臓病?! 日本はどうなの? 大阪はどないなってんねん?—CKD の診断と治療)」をテーマに開催された。

2) 通常総会・臨時総会

第 61 回通常総会を, 平成 28 年 6 月 9 日 (木) 16:00~大阪市北区中之島 5-3-68 リーガロイヤルホテル ウエストウイング 山楽において, 開催した。定款第 30 条に基づき, 定足数以上の評議員の出席が確認され, 本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき, 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会会長である武本佳昭会長が議長を務めた。

各常置委員長から資料に基づき, 平成 27 年度事業報告および平成 28 年度事業計画の報告があり承認された。平成 27 年度貸借対照表および正味財産増減計算書等, 平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書, 監事による監査報告があり承認された。平成 31 年度第 64 回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として和歌山県立医科大学腎臓内科学講座教授 重松 隆先生を理事会で承認されたとの報告があった。

また, 理事会で承認され, 本総会に推薦された, 秋葉 隆先生, 川西秀樹先生, 長谷川廣文先生, 平方秀樹先生および渡邊有三先生の名誉会員表彰と学会賞, 奨励賞, コメディカルスタッフ研究助成者に, 平成 28 年 6 月 11 日 (土) 大阪国際会議場大ホール第一会場で授与式を行い, 学会賞受賞者の記念講演を開催した。

通常総会終了後, 引き続き新評議員による臨時総会を開催, 定款第 28 条に基づき, 臨時総会の決議により出席評議員の中から新田孝作先生が議長を務めた。投票により役員 (理事 20 名, 監事 3 名) を選任した。

3) 役員会

- ・常任理事会: 平成 28 年 5 月 27 日・6 月 9 日・7 月 29 日・12 月 8 日・平成 29 年 3 月 31 日に開催
- ・理事会開催: 平成 28 年 5 月 27 日・6 月 9 日・6 月 9 日臨時・7 月 29 日・12 月 8 日・平成 29 年 3 月 31 日に開催
- ・監事による監査会: 平成 28 年 5 月 13 日に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 総務委員会

- (1) 会員に便宜を図るため, 会員証を発行し, 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会で学術総会参加受付, 専門医参加単位登録受付, 教育講演受講単位登録受付に使用した。
- (2) 学会員の便宜を図るため, e-ラーニングシステムを導入し, 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会から稼働することとなった。

6) 総務委員会各小委員会

(1) 情報管理小委員会

- ① 学会ホームページの円滑な運営, 内容の充実化

- a. 各種委員会, 小委員会, ワーキンググループ活動を含む学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った.
- b. 会員専用ページ, English ページを含むホームページのリニューアルをめざすべく, プロジェクトメンバーを結成し検討を行った.

② 透析装置の通信共通プロトコルの推進

日本医療機器テクノロジー協会の協力を仰ぎながら策定してきた「通信共通プロトコル Ver.4」案を第61回日本透析医学会学術集会・総会委員会企画セッションにて提示し, コンセンサスを得ることができた. 現在, その成果を委員会報告の形で発行すべく, 論文編集中である.

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

- ① 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行った.
- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行った.
- ③ 栄養管理士育成事業として, 日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成事業 (CKD 分野) における助言を行った.

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には, 関係者の協力を得て機動的に対応するとともに, 今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応するが, 今年は HIV 患者を施設が受け入れ拒否との新聞報道がなされたので, 約 4,000 施設にアンケート調査を実施した.

(4) 男女共同参画推進小委員会

本小委員会は, 内閣府が制定した「男女共同参画社会基本法」に基づき, 関係省庁が男女共同参画事業を強く推進するよう指導があり, 本学会も喫緊の案件として, 小委員会を常置委員会に昇格させ本事業を本格的に推進することとし, 平成 28 年度に常置委員会である男女共同参画推進委員会に移行した.

(5) 統計調査のあり方小委員会

平成 28 年度は, 本小委員会に関わる案件がなかったため, 会の活動はなかった.

(6) 統計調査業者選定小委員会

原契約業者の契約期間満了に伴い, 次期業者選定のために指名業者を選定し数度に亘り面談を実施し, 本小委員会の審議を経て, 理事会での審議および承認を得た後, 次期業者の選定を終わったので, 本小委員会は休会とした.

(7) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会

平成 28 年度発展途上国透析スタッフ育成支援プログラムを, 平成 29 年 2 月に実施した.

具体的には 7 名の先生に日本の人工腎臓の実際および手術手技などについて研修を実施した.

(8) 本学会のあり方小委員会

平成 28 年度は, 本小委員会に関わる案件がなかったため, 会の活動はなかった.

(9) e-ラーニング検討小委員会

e-ラーニングを平成 29 年度から実施するためにその問題点および費用などについて検討し, 業者選定を行い, 平成 29 年度から実施予定とした.

7) 学会との連絡, 協力関係

日本医学会 (評議員・連絡委員・医学用語委員・代委員)

日本医学会連合

日本医師会

日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会

透析療法合同委員会 (日本腎臓学会・日本泌尿器科学会・日本移植学会・日本人工臓器学会・日本透析医学会)

内科系学会社会保険連合
臓器移植関連学会協議会
末期腎不全治療説明用小冊子作成
糖尿病性腎症合同委員会（日本糖尿病学会・日本腎臓学会・日本透析医学会・日本病態栄養学会）
登録腎生検予後調査検討委員会
先行的献腎移植申請審査会
日本透析医会との連絡協議会
日本医療器材工業会
感染対策・災害対策・学術交流などに関し関連各学会等と積極的に協力，連携をむすんでいる。

2. 財務委員会

平成 28 年度事業として，日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また，各事業に対して経費節減を心がけ，平成 29 年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊，2016 年 4 月から 2017 年 3 月までに 12 冊発行した。
発行部数は月平均 16,700 部であった。
また，第 61 回日本透析医学会学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行した。
- (2) 2016 年 4 月～2017 年 3 月の投稿数・掲載数は，論文投稿数 84 編，受理数 53 編，掲載された投稿論文 54 編（内訳：原著 14 編，症例報告 36 編，その他 4 編）。採択率は 63%であった。
その他，第 61 回日本透析医学会学術集会・総会講演からの依頼論文等を掲載し，投稿論文を含め合計 81 編を掲載した。
- (3) 電子ジャーナル

引き続き科学技術振興機構（JST）の J-STAGE にて和文誌の全文を電子ジャーナルとして公開した。

2) 公式欧文誌について：Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）

- (1) 欧文誌は，Therapeutic Apheresis and Dialysis（TAD）として，引き続き刊行（2016 年 4 月から 2017 年 3 月までに 6 回刊行）した。2016 年も 2015 年度に引き続き，すべての投稿が Online 経由 100%を継続した。インパクトファクター（IF）は 1.477 であった。
- (2) TAD 誌を共同発行している国際アフェレシス学会（ISFA）と一般社団法人日本アフェレシス学会（JSFA）とともに，Wiley Blackwell 社との出版契約を 2017 年 3 月 27 日付けで更新した。

3) 新規公式欧文誌について：Renal Replacement Therapy（RRT）

- (1) 2016 年 12 月 31 日の段階で，世界の 8 ヶ国から合計 83 編の投稿論文があり，69 編を出版した。内訳は Research と Review のみならず，Case Report With mini-Review も受理した。このうち，一般社団法人日本透析医学会が著作権を有する Position Statement 論文は 4 編であった。
- (2) 日本腹膜透析医学会，日本臨床腎移植学会，日本急性血液浄化学会の 3 学会よりオフィシャルジャーナル化の要望があり，本学会を含む 4 学会の公式欧文誌となった。
- (3) PubMed Index 化の申請を 2016 年 5 月 6 日付けで行った。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

<学会賞>

- ・平成 28 年度の学会賞は次の 2 編であり、6 月 11 日の第 61 回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。
大前憲史（東京女子医科大学）

High preoperative C-reactive protein values predict poor survival in patients on chronic hemodialysis undergoing nephrectomy for renal cancer. *Urologic Oncology*. 2015 Feb; 33(2) : 67. e9-13.

坂本香織（女子栄養大学）

Maintenance of activities of daily living despite risk from genetic polymorphism in hemodialysis patients under nutritional management who survived an average of 30 years. *Renal Replacement Therapy* 2015; 1: 6. doi: 10.1186/s41100-015-0001-3

<奨励賞>

- ・平成 28 年度の奨励賞は次の 1 編であり、6 月 11 日の第 61 回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。
神田英一郎（東京共済病院）

Importance of simultaneous evaluation of multiple risk factors for hemodialysis patients' mortality and development of a novel index : dialysis outcomes and practice patterns study. *PLoS One*. 2015 Jun 1; 10(6) : e0128652. doi: 10.1371/journal.pone.0128652.

2) 学術委員会活動（ガイドライン，提言等の作成，広報活動）等に関する協議

- (1) 学術委員会の会合を定期的に開催し，学術委員会関連小委員会と共同して行うべき学術活動に関して協議を行った。
- (2) 当学会のガイドラインの意義，構造，作成・改訂手順を明確化し，「日本透析医学会診療ガイドライン（CPG）作成指針」としてまとめ，透析会誌 2016；49(7)：453-462 に掲載した。また二次出版として，本指針を英文化して，学会公式欧文誌である *Renal Replacement Therapy* 誌に投稿した。

3) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

- (1) ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し，新たな学術システムの構築の一つである year in review 2015 を第 61 回日本透析医学会学術集会・総会（平成 28 年 6 月）において委員会企画として開催した。
- (2) 透析会誌 2016；49(12)：761-788 に「Dialysis therapy. 2015 year in review」として掲載した。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

統計調査委員会のデータを用いて，わが国の透析患者における栄養指標の評価を行うべく活動をした。

5) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ（山本裕康グループ長）

透析会誌 2016；49(2)：89-158 に「2015 年版 日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」として上梓した。本学会公式欧文誌 *Renal Replacement Therapy* 誌に二次出版として英語版を投稿し，受理され掲載待ちである。

6) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）

平成 28 年 5 月 27 日開催の理事会で本ワーキンググループの設置が承認され，7 月 29 日開催の理事会において，メンバーが組織され改訂作業が開始された。

本ガイドラインは，2 部だてとし，Content 1 は，従来の記述形式をとり，Content 2 では，GRADE システムに則り，Clinical Question (CQ) をたて Systematic Review (SR) を行う。

また，本ガイドラインは，「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂を進めていくこととなった。SR メンバーは本学会の評議員の推薦を受け，組織し，SR には，EBM 普及推進事業ワークショップまたは本学会の主催のワークショップに参加することを条件付けた。別にパネルメンバーを組織する。

本年度では、CQ 決定、SR メンバーが決まり SR が開始されることになった。

7) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会 (土田健司委員長)

- ① ガイドライン手順書ワーキンググループと協力し、新たな学術システムの構築の一つである year in review 2015 を第 61 回日本透析医学会学術集会・総会 (平成 28 年 6 月) において委員会企画として開催した。
- ② 透析会誌 2016; 49(12): 761-788 に「Dialysis therapy. 2015 year in review」として掲載した。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会 (峰島三千男委員長)

- ① 「2016 年版 透析液水質基準」を委員会報告の形式で透析会誌 2016; 49(11): 697-725 に上梓掲載した。
- ② 「特別な機能をもつ血液透析器の特徴と評価法」について委員会報告の形式で発行すべく、論文編集集中である。
- ③ 透析液濃度測定標準化とその管理に関する指針を、日本臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会の合同で策定することとなり、現在検討中である。
- ④ 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画セッションを企画し、申請した。
- ⑤ ISO 会議に参加し、ISO の動向について確認した。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会 (山下明泰委員長)

- ① 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会 (平成 28 年 6 月) において、委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「持続可能社会に求められる新しい血液浄化システム」にて発表し、多くの出席者を集め、成功裏に終了した。
- ② 委員会で進行中の複数のプロジェクトについて、臨床応用に近いところにきていることを確認し、具体化を支援するためのシステム作りについて協議した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会 (峰島三千男委員長)

委員会を開催し、以下の事業を計画した。

- ① 体験参加型セッションの開催：ハンズオン研修や meet the expert などの会員参加型セッションの企画
- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告をベースとしたわかりやすいセミナーの開催
これらの企画を年次学術集会時に開催できるよう総会会長へ働きかけた。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会 (友 雅司委員長)

コメディカルスタッフ研究助成基金運営規定に基づき、研究助成金の対象者の選定を行った。
今年度は以下の 2 名への助成が決定した。(敬称略)

- ① 松沢良太
「維持血液透析患者における身体活動量と睡眠の質との関係」
- ② 齊藤大輔
「小児血液浄化療法における血液製剤を用いたプライミング液補正時のクエン酸濃度変化」

5. 統計調査委員会

1) 2015 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査・報告

- (1) 2015 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の速報値を第 61 回日本透析医学会学術集会・総会 (横浜) においてポスター展示し、同内容を大会アプリで配信した。
- (2) 図説現況は確定データにもとづいて作成し、CD ロムを収載した上で 2016 年 12 月に会員施設に送付した。
- (3) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2015 年 12 月 31 日現在)」を日本透析医学会雑誌 50 巻 1 号に掲載した。
- (4) 腹膜透析 (PD) レジストリ 2015 年末調査報告」は上記と統一して行った。

- (5) 上記の英文化・投稿作業中である。
- (6) 図説現況報告 PPT ファイルの英文化・HP 掲載の準備中である。
- 2) 2016 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査
2015 年度調査から完全匿名化調査を実施し、2017 年 4 月 1 日現在収集作業中である。
- 3) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2014 年 12 月 31 日現在)」を Annual Dialysis Data Report 2014, JSDT Renal Data Registry (JRDR) として、Renal Replacement Therapy (2017) 3:18, DOI 10.1186/s41100-017-0097-8 に掲載した。
- 4) 「腹膜透析 (PD) レジストリ 2014 年末調査報告」を Annual peritoneal dialysis report 2014, the peritoneal dialysis registry として、Renal Replacement Therapy に投稿し、2017 年 4 月 1 日現在 in press の状態である。
- 5) 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催した。
 - (1) 統計調査委員会セッション「世界一のレジストリにするための方策」
 - (2) 学術委員会・統計調査委員会合同企画
 - ①「統計調査からみた糖尿病透析治療の現在と未来」
 - ②「統計調査にみる明日からの高齢者透析治療」
- 6) Web-based Analysis of Dialysis Data Archives (WADDA) システムの開発
 - (1) 会員専用の JRDR を用いた帳票出力システムを開発し、2017 年度早期の稼働を目指している。
 - (2) WADDA を用いた学術解析の倫理的妥当性を担保するために、WADDA システムの利用規程を作成し、倫理委員会に審議を依頼した。
- 7) 研究用データベースファイル切り出しシステムの開発
学術解析用のデータファイルの出力プログラムを開発し、現在デモプログラムの確認、テストを行っており、2017 年度早期の稼働を目指している。
- 8) 過去蓄積データの匿名化について
匿名化調査後のデータの突合を確認したため、過去データの匿名化終了を 2018 年 3 月末日と設定した。
- 9) 日本透析医学会統計調査を用いた研究の倫理的妥当性の担保について
 - (1) 「日本透析医学会統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」を作成し、倫理委員会での審議を経て理事会承認を得た。
 - (2) 統計解析小委員会、学術委員会等との共同研究など、JRDR を用いて研究計画の妥当性について、倫理委員会で審議し、承認を得た上で解析に着手するシステムを確立した。
- 10) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - (1) 上記のデータベースを用いて、わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために必要な解析に着手した。
 - (2) 学会内他委員会と協同した解析計画は、統計調査委員会解析小委員会において統括された。
 - (3) 解析結果は国内外の関連学会において発表予定である。
- 11) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページを充実させて、PPT, EXCEL ファイルもアップロードする。
 - (2) ホームページの充実情報は情報管理小委員会に参加する形で行った。
- 12) 会員インセンティブの充実
会員インセンティブの向上のため、ウェブ上で帳票を随意出力できる上記 WADDA システム構築に着手した。
- 13) 国内・国際協力の推進
 - (1) US Renal Data System (USRDS) との学術交流会を 2016 年 11 月 19 日 (シカゴ) で開催した。

- (2) Australia New Zealand Data System との学術交流会を 2016 年 9 月 17 日（パース）で開催した。
- (3) Asian Renal Collaboration（ARC）の交流会に 2015 年 6 月 30 日（ロンドン）、11 月 17 日（シカゴ）参加した。
- (4) 米国腎臓データシステム（USRDS）に対するデータ提供は、例年通り行った。

14) 委託業者の見直し

- (1) 2017 年末調査から調査委託先を、アイメディアパートナーズからメイテツコムに変更した。
- (2) 2016 年末調査の結果納品までは現業者が、2017 年調査の準備は新業者が行う。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) 外部委員を招いたデータ解析の研修会を開催した。

地域協力小委員会

- (1) 2016 年に新規に開院・閉院した施設を調査し、2016 年末アンケート調査送付施設を決定した。2016 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。
- (3) 2016 年 6 月大阪において統計調査地域協力員会を開催し、匿名化調査の進捗状況、地域のニーズのモニタリングを行った。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 生涯教育プログラムを、11 地区の地方学術集会で実施した。
- (2) 一般社団法人化への移行により、専門医を有しない評議員もいるため、専門医制度委員会および関連小委員会の委員は、原則、専門医を有する評議員とする。都道府県委員で該当者がいない場合には、評議員の中から選出して、オブザーバーとする。

2) 研修プログラム小委員会

日本専門医機構専門医に関する情報システム開発等事業報告書に準じて、専門研修プログラム第 1 版の改訂に着手した。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 日本専門医機構専門医制度整備指針に準じて、専門研修カリキュラム第 2 版と専門研修トレーニング問題解説集第 2 版を整備し、専門研修指導マニュアル第 2 版（内容の整備）を作製し、関連委員に配布し、ホームページの会員専用ページにアップした。
- (2) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5 単位）を認定した。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間 5 年の内 1 回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は 5 月 1 日～5 月 31 日迄で実施し問題・正解・解説は 9 号に掲載した。

4) 専門医認定小委員会

- (1) 望ましい e-ラーニングシステムを検討し、総務委員会にシステム構築を依頼した。
- (2) e-ラーニング受講による取得単位、年間および 5 年間での最大可能取得単位数、課金金額を審議した。
- (3) 専門医申請において、教育責任者の署名偽造が発見され、教育責任者署名の確認を継続した。
- (4) 保留申請を 1 年間と 2 年間のいずれかで申請していたが、生涯で 2 年間で理解していない会員が少なく

はないため、申請期間を1年とし、2回目を申請する時には保留期間が最後であることを通知する。また、保留期間は、毎年、セルフトレーニング問題に正答することを追加する。なお、保留期間は、生涯で2年間であることを確認した。

- (5) 論文業績として、本学会誌（日本透析医学会誌，TAD，RRT）では原著論文・症例報告・総説を認め、その他の雑誌では、透析患者の血液浄化関連の原著論文と症例報告とし、刊行書業績は廃止した。
- (6) 専門医の適正数と年間育成専攻医数の検討を開始した。専門医の適正数を検討するためには、専門研修基幹施設数と専門研修連携施設数の把握と専門医の透析患者診療などの把握が必要である。専門医更新時に透析患者の診療などを2016年調査しており、2020年には、実際に透析に従事している専門医数などを把握できる。
- (7) 症例要約モデル集の改訂が必要になり、検討を開始した。今後は、4年に1回程度見直しの必要性を検討する。

5) 専門医試験小委員会

- (1) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定した。
- (2) 透析導入症例の症例要約で、血液透析、腹膜透析、腎臓移植の3つの腎代替療法を患者に説明したことの記載を評価対象に追加し、受験生に対しアナウンスすることとなった。
- (3) 筆記試験で使用する写真や画像がある問題に関する倫理的配慮について、患者個人を特定できないように配慮する必要がある。患者の顔写真を使用する場合には、目などを隠すとともに、患者および施設長の同意を書面で得ることと、顔写真以外は、患者が特定できる病歴番号などがなければ同意は必要なしとした。
- (4) 試験基準を見直し理事会の承認を得て次期の試験に適応させることとなった。
- (5) 優良な試験問題を正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、500題をプールした。
- (6) 試験問題をエクセルファイルで、IDと分野分類（大項目・中項目・小項目）により格納し、事務局が管理を行い、専門医試験小委員会委員長とは、パスワード付きのメールで共有している。
- (7) 専門医制度における倫理の問題についても審議し昨年同様に啓発し、専門医認定試験にも倫理の問題を出題した。

6) 施設認定小委員会

- (1) 教育関連施設で専門医不在が判明した場合、代行を一定期間認定していたが、今後は判明した時点で認定を停止し、一定期間を経過しても専門医が不在の場合には、認定を取り消すことになった。
- (2) 教育関連施設の認定条件で、透析台数を10台から5台に変更した。

7) 専門医認定（専門医認定試験）と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付・結果等については下記の通りである。

(1) 2016年度 第27回専門医認定

申請受付会告	2016年3号～5号
申請書類受付	2016年6月1日～6月30日
申請者数	270名
書類審査不適格者数	3名
書類審査適格者数	267名
専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）	10月16日（第3日曜日）
客観式筆答試験・口頭試問試験受験者数	266名
客観式筆答試験・口頭試問試験欠席者数	1名
客観式筆答試験・口頭試問試験不適格者数	40名

客観式筆答試験・口頭試問試験適格者数 226名（筆答・口頭試験 合格率 84.9%）

試験会場 都市センターホテル

適格者数 226名/270名（83.7%）

【認定期限 2017 年 3 月 31 日までの専門医更新総数】

更新対象者数	1,039 名
更新申請者数	1,013 名
更新適格者数	1,013 名（合格率 100%）
更新申請受付会告	2016 年 8 号～10 号
更新申請書類受付	2016 年 11 月 1 日～11 月 30 日

(2) 2016 年度 第 27 回指導医認定

申請受付会告	2016 年 10 号～12 号
申請書類受付	2017 年 1 月 6 日～2017 年 1 月 31 日
申請者数	98 名
適格者数	91 名（合格率 92.8%）

【認定期限 2017 年 3 月 31 日までの指導医更新総数】

更新対象者数	376 名
更新申請者数	322 名
更新適格者数	321 名（合格率 99.6%）
更新申請受付会告	2016 年 9 号～11 号
更新申請書類受付	2016 年 12 月 1 日～12 月 31 日

(3) 2016 年度 第 26 回認定施設・教育関連施設認定

申請受付会告	2016 年 4 号～6 号
申請書類受付	2016 年 7 月 15 日～8 月 15 日
申請施設	認定施設 33 施設
	教育関連施設 85 施設
適格施設	認定施設 31 施設（93.9%）
	教育関連施設 84 施設（98.8%）

【認定期限 2017 年 3 月 31 日までの施設認定更新総数】

更新申請受付会告	2016 年 4 号～6 号
更新申請書類受付	2016 年 7 月 15 日～8 月 15 日
更新対象施設数	445 施設
認定施設	158 施設
教育関連施設	287 施設
更新申請施設数	385 施設
認定施設	148 施設
教育関連施設	237 施設
更新適格施設数	381 施設
認定施設	147 施設

(4) 各小委員会の認定状況（2017年4月1日現在で記載）

専門医数	5,605名	※休会者・保留者含む
指導医数	1,967名	※休会者・保留者含む
施設認定数	計1,134施設	
認定施設数	480施設	
教育関連施設数	654施設	

7. 国際学術交流委員会

1) 第61回日本透析医学会学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行った。

I. 招請講演

- (1) Tariq Shafi (USA) “Wading Through a Sea of Numbers : Managing Hypertension in Dialysis Patients” chaired by Nobuhito Hirawa
- (2) Guy Rostoker (France) “Iron overload and iron toxicities in dialysis patients at the beginning of the 21st century” chaired by Matsuhiko Hayashi

II. シンポジウム

- (1) シンポジウム1 Sustainable Relationship in Dialysis among Asian Developing Countries and Japan-
What do You Need for Renal Replacement Therapy in Your Country?

Moderators : Masafumi Fukagawa, Toru Hyodo

- ① Minjur Dorji (Bhutan)
- ② Rishi Kumar Kafle (Nepal)
- ③ Sovandy Chan (Cambodia)
- ④ Chuluuntsetseg Dorj (Mongolia)
- ⑤ Raka Widiana (Indonesia)
- ⑥ Phanekham Souvannamethy (Laos)
- ⑦ Akihiro Yamashita (Japan)

- (2) シンポジウム2 What does FGF23 do on hemodialysis and CKD patients

Moderators : Tsuneo Takenaka, Yusuke Tsukamoto

- ① Seiji Fukumoto (Japan)
- ② Orson W. Moe (USA)
- ③ Yoshio Terada (Japan)
- ④ Martin H. de Borst (Netherlands)
- ⑤ Hirotaka Komaba (Japan)
- ⑥ Tamara Isakova (USA)

III. 一般講演 Free Communications

4カ国から口演10演題の発表があった。

IV. Welcome Reception

大会長負担にて評議員懇親会と共同で開催し、本委員会でサポートした。

日時：2016年6月9日（木）19：00～21：00

会場：リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 3階 ロイヤルルーム

V. Farewell Reception

本委員会で費用支払いのもとに開催した。

日時：2015年6月11日（木）18：30～20：30

会場：リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 28階 クラウンルーム

VI. Travel Grant 等

欧米からの招請講演演者に対しては、講演料 2000 ドル、交通費 5000 ドルを支給、シンポジストには欧米演者には講演料 1000 ドル、交通費 3000 ドル、アジア演者には講演料 10 万円、交通費 15 万円支給した。一般演題に関しては、4 ヶ国から口演 10 演題の発表があり、Travel Grant として計 70 万円（7 名）拠出した。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送った。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため、平成 28 年度は選出を行わなかった。

9. 保険委員会

平成 30 年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本小児腎臓学会、日本アフェレシス学会、日本急性血液浄化学会、日本腹膜透析医学会ならびに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行った。今回より人工腎臓、月当たりの回数制限の是正：高度の心不全症例に対して月当たり 14 回の人工腎臓技術料制限を月当たり 16 回への増加を提案することとした。

第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において「非自己管理型在宅血液透析療法の諸問題」というテーマで保険委員会企画を行った。

「透析液水質確保に関する研修」を第 61 回日本透析医学会学術集会・総会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した。

1) 高齢化社会に向けた在宅医療の検討小委員会

第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において「非自己管理型在宅血液透析療法の諸問題」というテーマで保険委員会企画を行い、その問題点を踏まえて対応すべき事柄について調査検討を行う予定であったが今年度は実施しなかった。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

(1) 日本透析医学会統計調査を利用した学術研究に対する倫理審査について、今後の研究倫理に関する審査方針を決定した。

(2) 日本透析医学会統計調査研究計画の軽微な変更について審議し承認した。

(3) 倫理委員会規程様式 1 の内容を一部修正し、理事会の審議を経て承認した。

(4) 研究倫理審査申請書の記載に関する件について審議し、理事会に見解を諮問し承認を得た。

(5) 倫理委員会規程の一部改正案を審議し、理事会に諮問し承認を得た。

- (6) 研究倫理審査の申請があった9件について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。
- 2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催
 - (1) 研究倫理に関する検討小委員会の概要を策定した。
 - (2) 倫理委員会規程の臨床研究倫理審査申請書様式1を検討小委員会様式として作成した。
 - (3) 研究倫理審査の申請があった9件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理委員会に報告した。
 - (4) 研究倫理審査の申請があった13件の予備審査を実施し検討小委員会の審査を開始した。
- 3) 個人情報管理
 - 個人情報（評議員、正会員氏名、所属）の提供依頼があり、
 - (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）
14件申請があり、いずれも承認した。
 - (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（第8条第4項関係）
2件の申請があり、いずれも承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 当委員会は、慢性腎臓病対策から、血液透析以外も含む腎代替療法の選択、普及まで、腎不全医療にかかわる広い範囲を活動対象としている。2016年度は、新委員長の着任と、それにとまなう委員の追加、変更があったため、これまでの他の団体との共同事業の継続と、新事業である「地域における腎疾患治療の現状に関する調査」の計画の立案を中心に行った。
- 2) 慢性腎臓病対策
 - (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し有益なデータ解析が行えるような体制を継続して強化した。小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。
 - (2) 厚生労働省が支援し、現在日本腎臓学会で行われている、CKD重症予防対策についても継続して協力した。
 - (3) 保存期の患者教育用の新しい冊子の作成に関して、日本腎臓学会との意見交換を行った。
- 3) 地域における腎疾患治療の現状に関する調査
 - 地域における医師数、特に専門医数の偏在が問題となっている。そのような地域では、慢性腎臓病の診療や、腎代替療法への移行について、アクセスが不十分である可能性が高い。そこで、専門医が少ないと思われる地域の専門医がいない施設に対して、腎代替療法の説明や実際の専門医への紹介についてのアンケート調査を行うことに決定した。まず、モデル地域として、岩手県を選び、透析医会等に協力要請するとともに、アンケートの内容、施設の選択を進め、アンケートを配布。回収と呼び解析を行った上で、さらに調査地域を広げるための予備調査を行った。
- 4) 腎代替療法の適正な選択のための情報提供を行った。
 - (1) 医療側、患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために、関連学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な公開を積極的に進めた。腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは、今年度も末期腎不全統計、preemptive腎移植、保存期腎不全治療、腎代替法の現況を継続的に集約し報告する筋道をたてた。
 - (2) 腎不全患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、作成DVDを増刷し配布と普及に努めた。
 - (3) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会と共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。

- (4) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った。

12. 危機管理委員会

1) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの提言をまとめたダイジェスト版を英文化し、Renal Replacement Therapy に position statement として掲載した。（Masakane I, Akatsuka T, Yamakawa T, Tsubakihara Y, Ando R, Akizawa T, Minakuchi J, Nitta K : Survey of dialysis therapy during the Great East Japan Earthquake Disaster and recommendations for dialysis therapy preparation in case of future disasters. Renal Replacement Therapy 2016 2 : 48 Published on : 25 August 2016
- (2) 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策」を行った（2016 年 6 月 11 日、大阪国際会議場）。
- ① 南海トラフ巨大地震と透析医療 overview 山川智之委員
 - ② 東日本大震災の教訓を南海トラフ巨大地震への備えにどう活かすか 宮崎真理子委員
 - ③ 経験に学ぶ東海・東南海地震の災害対策 赤塚東司雄委員
 - ④ 静岡県における東海地震の災害対策 加藤明彦委員
 - ⑤ 徳島県における東南海・南海地震に対する対策 橋本寛文委員
 - ⑥ 大規模災害に備える九州の広域災害対策～道州レベルでの活動：九州透析医会の例～隈 博政（(医) 明楽会くまクリニック外科）
 - ⑦ 広域災害と通信手段 鈴木一裕（援腎会すずきクリニック）
 - ⑧ JHAT 設立の意義 山家敏彦委員
- そして、内容を日本透析医学会雑誌に委員会報告として掲載した（山川智之、宮崎真理子、赤塚東司雄、加藤明彦、橋本寛文、隈 博政、鈴木一裕、山家敏彦、安藤亮一：委員会報告「経験に学ぶ南海トラフ巨大地震の災害対策」透析会誌 49 : 627-632, 2016）。
- (3) 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「直下型地震」を行うことを決定し、概要を企画した。
- (4) 2016 年 4 月の熊本地震に際して、「緊急 熊本地震にあたっての日本透析医学会からのお知らせ」を学会ホームページに掲載し、情報提供、支援のお願いをした。
- (5) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力した。
- (6) 学会ホームページ担当委員として、宮崎真理子委員を推薦し、災害時における透析のコンテンツ作成を担当することとした。

2) 医療安全対策小委員会（安藤亮一小委員長）

- (1) 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「透析における医療安全を考える～医療事故調査制度をどのように理解し対応するか」を行った（2016 年 6 月 12 日、大阪国際会議場）。
- ① 医療安全へのレジリエンス・エンジニアリングの導入～複雑系を前提としたシステミックアプローチ 中島和江（大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部）
 - ② 透析施設における医療事故の実態～日本透析医会アンケート調査結果～ 篠田俊雄委員
 - ③ 医療事故調査等支援団体として透析医学会はどのように対応するか 安藤亮一委員
 - ④ 医療事故調査制度への対応～弁護士の立場から～ 小島崇宏（大阪 A&M 法律事務所）
- そして、内容を日本透析医学会雑誌に委員会報告として掲載した（安藤亮一、篠田俊雄、山川智之、小

島崇宏, 中島和江, 北村温美: 透析における医療安全を考える～医療事故調査制度への対応と医療安全へのレジリエンス・エンジニアリングの導入. 透析会誌 49: 727-731, 2016).

- (2) 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会において, 委員会企画「医療安全への各方面からの取り組み」を行うことを決定し, 概要を企画した.
- (3) 厚生労働省等から報告される, 薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で, 透析医療に関わるものについて, 日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図った.
- (4) 調査委員の移動にともなって, 一部調査委員の変更を行った.
- (5) 医療事故調査・支援センター(日本医療安全調査機構)の協力団体として, 学会から 1 名調査委員を派遣して医療事故調査報告制度におけるセンター調査を行った. また, 医療事故調査・支援センターからの依頼により, 「アナフィラキシーに関連した死亡」の専門分析部会に委員を派遣した.

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき, 利益相反状態に関連した以下の事項を実施した.

- 1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員(理事長, 理事, 監事), 総会会長, 委員会委員長, 特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出

なお, 会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく, それに伴う当委員会の開催はなかった.

14. 男女共同参画推進委員会

- 1) 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会において, 委員会企画「透析に関わる多職種の男女共同参画の現状と問題点」を行った.
- 2) 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会における主要演題の女性演者を推薦し登用された. また, 保育施設の利用年齢制限の拡大を依頼し, 実施された. 保育施設の利用年齢制限の拡大は, 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会においても依頼した.
- 3) 男女共同参画推進委員会の活動内容を日本透析医学会ホームページ上に掲載した.
- 4) 女性医師育成プログラム『TSUBASA PROJECT』を始動させた. 第 1 回『TSUBASA PROJECT』では, メインテーマを”Gender”とした研究を, 7 名の若手女性医師が女性医師育成委員会委員の指導下で開始した. 研究結果は第 62 回日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画『TSUBASA PROJECT』での報告を立案した.
- 5) 日本臨床工学技士会, 日本腎臓薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会と連携を取り, 透析施設における男女共同参画推進状況のアンケート調査を行った. アンケート調査の結果を踏まえ, 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会において, 委員会企画「透析施設における男女共同参画」を立案した.

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	中元秀友	平成28年6月9日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
同	重松隆	同	非常勤	なし	
同	新田孝作	同	非常勤	なし	
理事	安藤亮一	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	岡田一義	同	非常勤	なし	
同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
同	武本佳昭	同	非常勤	なし	
同	土田健司	同	非常勤	なし	
同	土谷健	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	深川雅史	同	非常勤	なし	
同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
同	政金生人	同	非常勤	なし	
同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
同	森石みさき	同	非常勤	なし	
同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
同	吉田克法	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宍戸寛治	平成28年6月9日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
同	吉田一成	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	平成28年6月9日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
3	同	浅野友彦	同	非常勤	なし	
4	同	阿部貴弥	同	非常勤	なし	
5	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
6	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
7	同	荒川俊雄	同	非常勤	なし	
8	同	有蘭健二	同	非常勤	なし	
9	同	有村徹朗	同	非常勤	なし	
10	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
11	同	安藤亮一	同	非常勤	なし	
12	同	家原典之	同	非常勤	なし	
13	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
14	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
15	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
16	同	石田陽一	同	非常勤	なし	
17	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
18	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
19	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
20	同	伊藤哲二	同	非常勤	なし	
21	同	伊藤裕	同	非常勤	なし	
22	同	伊東稔	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤恭彦	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	稲葉雅章	同	非常勤	なし	
26	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
27	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
28	同	今福俊夫	同	非常勤	なし	
29	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
30	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
31	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
32	同	宇田晋	同	非常勤	なし	
33	同	内田信一	同	非常勤	なし	
34	同	大城戸一郎	同	非常勤	なし	
35	同	大田和道	同	非常勤	なし	
36	同	大山力	同	非常勤	なし	
37	同	岡田一義	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
39	同	尾形聡	同	非常勤	なし	
40	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
41	同	岡戸丈和	同	非常勤	なし	
42	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
43	同	小川智也	同	非常勤	なし	
44	同	奥野仙二	同	非常勤	なし	
45	同	小倉誠	同	非常勤	なし	
46	同	小野寺一彦	同	非常勤	なし	
47	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
48	同	笠井健司	同	非常勤	なし	
49	同	風間順一郎	同	非常勤	なし	
50	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
51	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
52	同	要伸也	同	非常勤	なし	
53	同	金山博臣	同	非常勤	なし	
54	同	金子佳照	同	非常勤	なし	
55	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
56	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
57	同	川合徹	同	非常勤	なし	
58	同	河田哲也	同	非常勤	なし	
59	同	菅政治	同	非常勤	なし	
60	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
61	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
62	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
63	同	木全直樹	同	非常勤	なし	
64	同	久野勉	同	非常勤	なし	
65	同	熊谷裕生	同	非常勤	なし	
66	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
67	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
68	同	古波蔵健太郎	同	非常勤	なし	
69	同	小林絵美	同	非常勤	なし	
70	同	小林正貴	同	非常勤	なし	
71	同	小松康宏	同	非常勤	なし	
72	同	小薮助成	同	非常勤	なし	
73	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
74	同	齋藤満	同	非常勤	なし	
75	同	酒井謙	同	非常勤	なし	
76	同	酒井行直	同	非常勤	なし	
77	同	坂口美佳	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
79	同	佐藤 滋	同	非常勤	なし	
80	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
81	同	佐藤 壽伸	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 正嗣	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	重松 隆	同	非常勤	なし	
86	同	穴戸 寛治	同	非常勤	なし	
87	同	柴垣 有吾	同	非常勤	なし	
88	同	柴田 茂	同	非常勤	なし	
89	同	柴原 伸久	同	非常勤	なし	
90	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
91	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
92	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
93	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
94	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
95	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
96	同	杉本 俊門	同	非常勤	なし	
97	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
98	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
99	同	鈴木 祐介	同	非常勤	なし	
100	同	清野 耕治	同	非常勤	なし	
101	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
102	同	鷹津 久登	同	非常勤	なし	
103	同	高橋 計行	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
106	同	田中 元子	同	非常勤	なし	
107	同	田邊 一成	同	非常勤	なし	
108	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
109	同	玉井 宏史	同	非常勤	なし	
110	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
111	同	田村 禎一	同	非常勤	なし	
112	同	田村 雅仁	同	非常勤	なし	
113	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
114	同	土田 健司	同	非常勤	なし	
115	同	土谷 健	同	非常勤	なし	
116	同	土谷 順彦	同	非常勤	なし	
117	同	鶴岡 秀一	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
119	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
120	同	土井研人	同	非常勤	なし	
121	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
122	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
125	同	中岡明久	同	非常勤	なし	
126	同	長岡由女	同	非常勤	なし	
127	同	中里優一	同	非常勤	なし	
128	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
129	同	仲谷達也	同	非常勤	なし	
130	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
131	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
132	同	中元秀友	同	非常勤	なし	
133	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
134	同	名波正義	同	非常勤	なし	
135	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
136	同	成田一衛	同	非常勤	なし	
137	同	西一彦	同	非常勤	なし	
138	同	西慎一	同	非常勤	なし	
139	同	西川慶一郎	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
142	同	新田孝作	同	非常勤	なし	
143	同	新田豊	同	非常勤	なし	
144	同	根木茂雄	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本哲也	同	非常勤	なし	
147	同	橋本寛文	同	非常勤	なし	
148	同	蓮池由起子	同	非常勤	なし	
149	同	長谷弘記	同	非常勤	なし	
150	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
151	同	波多野道康	同	非常勤	なし	
152	同	服部元史	同	非常勤	なし	
153	同	花房規男	同	非常勤	なし	
154	同	濱田千江子	同	非常勤	なし	
155	同	林晃一	同	非常勤	なし	
156	同	速見浩士	同	非常勤	なし	
157	同	原田浩	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
159	同	樋口千恵子	同	非常勤	なし	
160	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
161	同	兵藤透	同	非常勤	なし	
162	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
163	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
164	同	深川雅史	同	非常勤	なし	
165	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
166	同	藤井秀毅	同	非常勤	なし	
167	同	藤元昭一	同	非常勤	なし	
168	同	測之上昌平	同	非常勤	なし	
169	同	古井秀典	同	非常勤	なし	
170	同	古瀬洋	同	非常勤	なし	
171	同	古谷隆一	同	非常勤	なし	
172	同	洞和彦	同	非常勤	なし	
173	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
174	同	前田益孝	同	非常勤	なし	
175	同	前野七門	同	非常勤	なし	
176	同	政金生人	同	非常勤	なし	
177	同	正木浩哉	同	非常勤	なし	
178	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
179	同	松下和通	同	非常勤	なし	
180	同	松田昭彦	同	非常勤	なし	
181	同	松橋尚生	同	非常勤	なし	
182	同	松原雄	同	非常勤	なし	
183	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
184	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
185	同	峰島三千男	同	非常勤	なし	
186	同	三股浩光	同	非常勤	なし	
187	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
188	同	宮田昭	同	非常勤	なし	
189	同	宮本賢一	同	非常勤	なし	
190	同	向山政志	同	非常勤	なし	
191	同	村上円人	同	非常勤	なし	
192	同	望月隆弘	同	非常勤	なし	
193	同	森典子	同	非常勤	なし	
194	同	森石みさき	同	非常勤	なし	
195	同	八木澤隆	同	非常勤	なし	
196	同	矢内充	同	非常勤	なし	
197	同	柳田太平	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山内 淳	同	非常勤	なし	
199	同	山縣 邦弘	同	非常勤	なし	
200	同	山川 智之	同	非常勤	なし	
201	同	山下 明泰	同	非常勤	なし	
202	同	山中 正人	同	非常勤	なし	
203	同	山本 裕康	同	非常勤	なし	
204	同	湯澤 由紀夫	同	非常勤	なし	
205	同	横尾 隆	同	非常勤	なし	
206	同	横山 啓太郎	同	非常勤	なし	
207	同	横山 建二	同	非常勤	なし	
208	同	横山 仁	同	非常勤	なし	
209	同	吉田 一成	同	非常勤	なし	
210	同	吉田 克法	同	非常勤	なし	
211	同	吉田 理	同	非常勤	なし	
212	同	吉田 英昭	同	非常勤	なし	
213	同	吉本 充	同	非常勤	なし	
214	同	吉矢 邦彦	同	非常勤	なし	
215	同	米田 龍生	同	非常勤	なし	
216	同	竜崎 崇和	同	非常勤	なし	
217	同	脇野 修	同	非常勤	なし	
218	同	鷺田 直輝	同	非常勤	なし	
219	同	和田 篤志	同	非常勤	なし	
220	同	和田 隆志	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由	備考
中西 健	常任理事	平成28年6月9日	任期満了による	
水口 潤	常任理事	同	同	
伊丹 儀友	理事	同	同	
林 松彦	理事	同	同	
相川 厚	監事	同	同	

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	20名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	220名	なし	
合計	243名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	本年度末	前年度末		
	平成 29 年 3 月 31 日現在	平成 28 年 3 月 31 日現在		
正 会 員	13,427	13,133	294	
施設会員	4,046	4,025	21	
賛助会員	65	67	-2	
名誉会員	44	43	1	
計	17,582	17,268	314	

③ 職員に関する事項

平成 28 年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	齋 藤 良 雄	平成 23 年 4 月 1 日	総 括 管 理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
平成 28 年 5 月 27 日 第 1 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 平成 28 年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 3. 平成 27 年度事業報告（案）に関する件 4. 平成 27 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 5. 平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件 6. 平成 27 年度監事による監査報告に関する件 7. 外部委員会委員の選出に関する件 8. 委員会委員の交替に関する件 9. 役員選任に伴う立会人の指名に関する件 10. 理事会一任専門医制度規則の一部改正（案）に関する件 11. 第 61 回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件 12. 委員会名の英訳に関する件 13. 平成 28 年度事業計画に新規事業を追加することに関する件 14. 2009 年版「腹膜透析ガイドライン」の改訂に関する件 15. 日本高血圧学会および本学会のホームページに「慢性透析患者の減塩目標」を掲載することに関する件 16. フィリピン国における透析液浄化プロジェクトの後援に関する件 17. 第 61 回（平成 28 年度）学術集会・総会に関する件 18. 第 62 回（平成 29 年度）学術集会・総会に関する件 19. 第 63 回（平成 30 年度）学術集会・総会に関する件 20. 委員会委員の委嘱に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 平成 29 年 3 月 3 日	1. 平成 29 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 2. 平成 29 年度予算（案）について	全会一致承認 全会一致承認
・編集委員会 欧文誌運営委員会 平成 28 年 6 月 10 日	1. 新規欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) 出版関連情報の報告に関する件 2. Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) 出版関連情報の報告に関する件	全会一致承認 全会一致承認
欧文誌・和文誌 合同編集委員会 平成 28 年 6 月 10 日	1. 新規欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) 出版関連情報の報告に関する件 2. Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) 出版関連情報の報告に関する件 3. 和文誌出版関連情報の報告に関する件 4. 日本透析医学会学術集会・総会の抄録集に関する件 5. JSDBTBook シリーズの創刊のアイデアの検討に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
和文誌運営委員会 平成 28 年 9 月 27 日	1. 今後の和文誌のあり方について 2. 投稿規程第 17 項の一部改正（案）について 3. 専門医制度委員会への申し入れ事項について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
平成 29 年 2 月 15 日	1. 「日本透析医学会雑誌」特集号について 2. その他	全会一致で承認 全会一致で承認
・学術委員会 平成 28 年 4 月 15 日	1. 学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 2. 名誉会員・学会賞・奨励賞及びコメディカルスタッフ研究助成授与式に関する件 3. その他	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
平成 28 年 11 月 3 日	1. 腹膜透析ガイドライン改訂に向けて 2. 統計調査 公募研究について 3. 第 61 回学術集会・総会 学術委員会企画について 4. 次回学術集会における year in review の準備について 5. 学会賞 受賞記念 講演について 6. 「長時間透析に関する機能と効率および安全性に関する提言」の作成について	全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認 全会一致承認
・統計調査委員会 平成 28 年 5 月 17 日	1. 2015 年末調査回収結果報告 2. 2016 年匿名化調査について 3. 学会提示用ポスター 4. 調査の法律的問題について 5. 今後の業者選定について 6. 新規業者との委託業務の内容について 7. 下記のデータベースの匿名化について 8. 会員ホームページでのデータ自動集計機能および研究用データ切り出し業者選定について 9. 英文ホームページについて 10. 論文化内規、今後の研究・解析体制について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 28 年 5 月 17 日	11. 2016JSDT 規格	報告・承認
	12. USRDS へのデータ提供	報告・承認
平成 28 年 8 月 30 日	13. APCN の際の ANZ チームとのミーティングについて	報告・承認
	1. 委員会の 2 年間の方針と委員個人のミッション	報告・承認
	2. 2015 年末図説現況と CD-ROM の作成	報告・承認
	3. 2014 年現況報告 (英訳版について)	報告・承認
	4. 2016 年調査へ向けて倫理委員会への申請	報告・承認
	5. 自動集計プログラム, 自動切り出し機能の委託業者決定	報告・承認
	6. DB 作成手順, 定義等の確認	報告・承認
	7. 業者選定委員会の報告と業者選定へ向けた仕様書, スケジュールの確認	報告・承認
	8. ESA の種類と予後に関する論文の投稿にあたって	報告・承認
	9. 公募研究データの取扱	報告・承認
	10. 臨床腎移植学会レジストリとの協同, 62JSDT 学術企画と APCN のミーティング	報告・承認
平成 28 年 12 月 2 日	11. 第 62 回日本透析医学会学術集会委員会企画	報告・承認
	12. アランコリンズ氏からの指摘	報告・承認
	13. 外部業者 (透析支援ソフト会社) からのヒアリング機会の設定	報告・承認
	1. あり方委員会報告	報告・承認
	2. 業者選定委員会の進捗状況とスケジュールの確認	報告・承認
	3. 2016 年調査へ向けて	報告・承認
	4. 今後の調査報告書の編集方針	報告・承認
	5. 2014 年現況報告, 英訳版 RRT への投稿について	報告・承認
	6. 2012 年~2014 年集計データの正誤表まとめ	報告・承認
	7. 日本透析医学会統計調査 (JRDR) を用いた研究の進め方に関する内規, オーサーシップ内規の検討	報告・承認
	8. 臨床腎移植学会レジストリとの協同, ANZDATA とのミーティングについて	報告・承認
	9. 統計調査委員会解析小委員会への新規メンバー追加について	報告・承認
平成 29 年 3 月 11 日	10. 自動集計プログラム, 自動切り出し機能に関する委託業者からのプレゼンテーション	報告・承認
	1. 平成 29 年度事業計画について	報告・承認
	2. 2016 年統計調査 進捗状況	報告・承認
	3. 業者選定について	報告・承認
	4. 2017 年調査項目について	報告・承認
	5. 透析医学会統計調査の英語名について	報告・承認
	6. 2014 年末調査の英語版年次報告書, PD レジストリと報告書	報告・承認
	7. 2016 年調査報告書の作成方針	報告・承認
	8. 英語 HP の整備状況, 今後の見通し, コンテンツの整備	報告・承認
	9. 会員専用ページの「自動集計機能」について	報告・承認
	10. JRDR を用いた研究の進め方に関する内規, Authorship 規程	報告・承認
	11. 第 62 回日本透析医学会学術集会委員会企画と JSDT 委員会企画の経過報告・他団体とのミーティングについて	報告・承認
・専門医制度委員会 平成 28 年 9 月 9 日	1. 2015 年度専門医認定申請書類審査について	全会一致で承認
	2. 2016 年度専門医認定試験要綱について	全会一致で承認
	3. 2016 年度専門医認定試験について	全会一致で承認
平成 28 年 12 月 2 日	1. 2016 年度第 27 回専門医認定試験判定結果について	全会一致で承認
	2. 2016 年度認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査報告について	全会一致で承認
	3. 教育関連施設における専門医 (教育責任者) 不在時の取り扱いについて	全会一致で承認
	4. 専門医制度規則 (現行), 専門医制度規則施行細則 (現行) および専門医制度委員会内規の一部改正 (案) について	全会一致で承認
	5. 専門医制度規則 (機構対応) の一部改正 (案) について	全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 28 年 12 月 2 日 平成 29 年 3 月 17 日	6. その他 1. 認定期限 2017 年 3 月 31 日までの専門医更新申請審査結果について 2. 第 27 回（2016 年度）指導医認定申請 審査結果について 3. 認定期限 2017 年 3 月 31 日までの指導医更新申請審査結果について 4. 地方学術集会・全国規模学術集会・生涯教育プログラムについて 5. 2017 年度セルフトレーニング問題作成について 6. e-ラーニングの取得単位点数と課金額について 7. 現行 専門医制度規則施行細則の一部改正（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・国際学術交流委員会 平成 28 年 8 月 27 日	1. 平成 27 年度国際学術交流委員会委員について 2. 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画報告と総括 3. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・評議員選出委員会	「該 当 な し」	
・保険委員会 平成 28 年 11 月 14 日	1. 平成 30 年度診療報酬改訂, 要望事項について 2. 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会 保険委員会セッションについて	報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 平成 28 年 9 月 28 日	1. 日本透析医学会統計調査の実施に関する件 2. 日本透析医学会統計調査の利用に関する件 3. 日本透析医学会統計調査を利用した学術研究に対する倫理審査について 4. 日本透析医学会統計調査研究計画の変更に関する件	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・腎不全総合対策委員会 平成 28 年 10 月 21 日	1. 本委員会について 2. 本委員会の今後の活動について	報告・承認 報告・承認
・危機管理委員会 平成 28 年 9 月 16 日	1. 第 61 回日本透析医学会学術集会・総会会期中の危機管理委員会企画の報告について 2. 第 62 回日本透析医学会学術集会・総会への危機管理委員会企画について 3. 医療事故調査および調査委員の変更について 4. 災害時のステートメント作成について 5. 本委員会の取り扱う範囲について 6. その他	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会	「該 当 無 し」	
・男女共同参画推進 委員会	「該 当 無 し」	

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	中 元 秀 友	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		日本慢性腎臓病対策協議会	副理事長	一 部
		一般社団法人 埼玉医科大学医師会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 LINE	代表理事	一 部
常任理事	稲 葉 雅 章	一般社団法人 日本骨粗鬆症学会	理 事	
		日本骨形態計測学会	理 事	
		日本運動療法学会	理 事	
		日本疲労学会	理 事	
		一般社団法人 日本マグネシウム学会	理 事	
		公益財団法人 大阪腎バンク	理 事	
	重 松 隆	一般財団法人 和歌山腎臓財団	理事長	一 部
		公益財団法人 和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	副理事長	一 部
		一般社団法人 日本アフェリシス学会関西地方会	代表理事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓学会西部部会	理 事	一 部
		公益財団法人 わかやま移植医療推進協会	評議員	一 部
	新 田 孝 作	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
	理 事	安 藤 亮 一	一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事
一般社団法人 三多摩腎疾患治療医会			副理事長	一 部
猪 阪 善 隆		一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
岡 田 一 義		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	
		日本慢性腎臓病対策協議会	理 事	
熊 谷 裕 生		日本循環制御医学会	理 事	
武 本 佳 昭		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	監 事	一 部
土 田 健 司		特定非営利活動法人 日本アクセス研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部
土 谷 健		一般社団法人 バイオマーカー研究会	代表理事	
鶴 屋 和 彦		一般社団法人 日本腎臓学会	幹 事	一 部
友 雅 司		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
	一般社団法人 日本人工臓器学会	理 事	一 部	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	深 川 雅 史	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
	政 金 生 人	特定非営利活動法人 日本 HDF 研究会	理 事	一 部
	峰 島 三 千 男	一般社団法人 日本アフェレシス学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理事長	一 部
	森 石 み さ き	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	
	吉 田 克 法	一般社団法人 日本移植学会	理 事	
一般社団法人 奈良県医師会透析部会		理事長	一 部	
監 事	宍 戸 寛 治	公益社団法人 日本透析医会	常務理事	一 部
	仲 谷 達 也	一般社団法人 日本泌尿器科学会	監 事	
		一般社団法人 日本泌尿器内視鏡学会	理 事	
		一般社団法人 日本性機能学会	理 事	
		一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理事長	
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	副会長(理事)	
		公益財団法人 大阪腎バンク	常任理事	
	吉 田 一 成	公益財団法人 かながわ健康財団	理 事	
		NPO 法人 いつでもどこでも血液浄化インターナショナル	理 事	一 部
		一般社団法人 日本移植学会	幹 事	

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。